

# 小さな野外展 ART STUDY



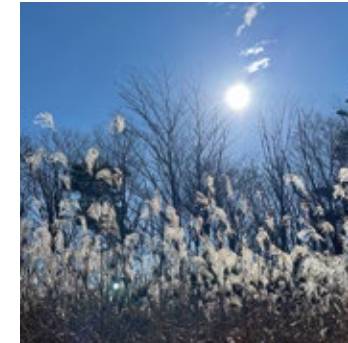
## 小さな野外展 ART STUDY

主催 ART STUDY実行委員会  
(関 直美、室岡正明)  
富士河口湖町富士ヶ嶺2-1148

協力 富士ヶ嶺高原別荘地(富士ドクタービレッジ)  
富士ドクタービレッジ村会  
C-15山荘

写真提供 P.17 見開き / 宮川健二・Chihaya T Watanabe  
ドローン2点 / 扇 他ART STUDY実行委員会

デザイン leekswork Co.Ltd.



A S A D A  
ASADA

安藤信弘  
Ando Nobuhiro

伊藤のりこ  
Ito Noriko

酒井信次  
Sakai Shinji

関 直美  
Seki Naomi

高田芳樹  
Takata Yoshiki

高村牧子  
Takamura Makiko

豎川可奈  
Tatekawa Kana

原 博史  
Hara Hiroshi

東 裕二  
Higashi Yuji

布施新吾  
Fuse Shingo

堀本俊樹  
Horimoto Toshiki

室岡正明  
Murooka Masaaki

渡辺佐忠  
Watanabe Satyu

2025 11.1 SAT - 11.24 MON | 12:00 ~ 16:00  
金、土、日、祭日のみ

11.1 13:00 ~ ダンスパフォーマンス : いけよしの 深谷正子

富士ヶ嶺グリーンクラブ前の野原

山梨県南都留郡富士河口湖町富士ヶ嶺2-1

## 人間と物質 宮田徹也 / 日本近代美術思想史研究

ART STUDY2回目、今回は吉本義人のみが抜けて前の7人にASADA、安藤、伊藤、堅川、原、東、渡辺が加わり14人に増えた。その分、展示空間が増した。前回同様の場所があれば、スキをかき分けて奥へ通じる空間もあり、細い道を辿ると広がる領域もあった。

前回の記録集で志賀信夫は、材質を主題に作品を論じた。今回、私も材質に注目するが、個々ではなく全体の雰囲気批評する。

毛糸、木材、金具、合板、鹿の骨、ペンキ、オイルパステル、色鉛筆、ウッドストーン、蟬の脱け殻、羊毛、プラスチックフープ、石、布、アクリル板、鉄、ソーラー玩具、タイル、プラスチックポット、ニット、セメント、ガラス。

様々な材質が彫刻として蘇り、野外展を飾った。それがここに相応しいのか否かを、私は問いたい訳ではない。これまで人類が創り上げてきたものとは何かを、問題にしたいのだ。人工物と自然物の違いとは、何か。

同様に、彫刻とダンスの違いについても、考えた。



初日、いけよしのと深谷正子のダンスパフォーマンスが開催された。

よく晴れたこの山奥に30人を超える観客が訪れたことは、それだけこの展覧会とイベントに意義があることを示している。

いけであり深谷であり、材質は人間だ。しかし彫刻と同様、表わすものが異なれば自ずとダンス作品も異なる。動のいけ、静の深谷、全く動かない彫刻、常に生き続ける風、光、影、匂い、自然の音と存在。この4者が拮抗していった。

途中、舞踏の三浦一壮、音の大串孝二、ダンサーのアナ・バースが介在してきた。人であったから良かったものの、鹿や熊、鷲が現れても不思議はあるまい。雨天決行であり、大自然の中でどのようなハプニングが起きても、いけと深谷は受け止めた。最初は会場入って広いスペース、後半は細道を潜り抜けて不二山を背景とした広い地点で、凡そ45分間であった。パフォーマンスには、ダンサーのみならず撮影者も観客も含まれていた。人間と物質は、材質という点から逃れることは出来ない。



## ASADA

不死さん(英:Fuji-san) 素材:毛糸・金具・鹿の骨



なんで大それたタイトルをつけたくなっちゃったんだろう...

背の高いスキに鹿の気配、空に雲に、近く大きく鮮やかな富士山を前にする自分の分身としての立体にふじさんと名付けるなんて...

その果てしなさ、偉大さ、カッコよさへの敬服の感が成せる技か...

おかげでふじさんは富士山のそばでとてもすてきな時間を過ごしました

「不死さん」としてもっともっと自然に生きていたいと思いました



## 安藤信弘

椿に座りて富士を見る 素材:椿(木材)



初めて富士の裾野に作品を置きました。  
その広さと雄大さを感じられる作品を目指しましたが、  
なかなか思い通りにはなりませんでした。  
作品に座った方に、片鱗でも伝わっていただければ嬉しいの  
ですが。



## 伊藤のりこ

土星の旅 in 富士ヶ嶺 素材:合板・ペンキ・オイルバステル・色鉛筆・ウッドストーン



富士山の前に土星を置きたい—という大きな夢で、  
富士ヶ嶺グリーンクラブ前の野原に土星は旅をした。  
すすきの野原、振り向けば富士山…という中、コンク  
リートの基礎が残っている。それが彫刻台のように見  
える。考えてみると野外で彫刻台に作品がのっている  
展示…不思議な展示だ。  
その中の1つ青系の色が塗られた基礎の上にウッデ  
イストーンをのせ、その上にペニヤで作ったブルーの  
土星を置いた。ここに降りて来たイメージで…



## 酒井信次

Zikade-蟬 素材:蟬の脱け殻他



「蟬の声聞く からに何ぞ思う」とコメントを関に電話で伝えてきた。

なんでも「後撰和歌集(951年着手)」に蟬の歌があるというので調べてみた。

どうやら以下の歌がこれに該当するようだ。

「うつせみの こゑきくからに 物ぞ思ふ 我も空しき世にしすまへは」

(異同資料句番号:00195) 読み人知らず



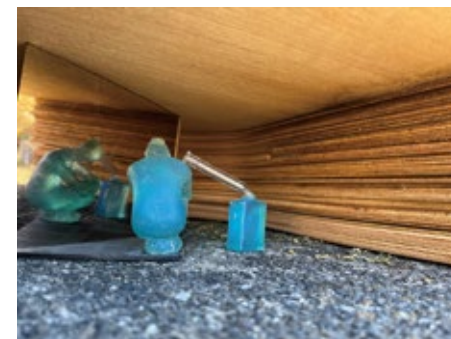
## 関直美

野原のたたずまい 素材:ベニヤ他



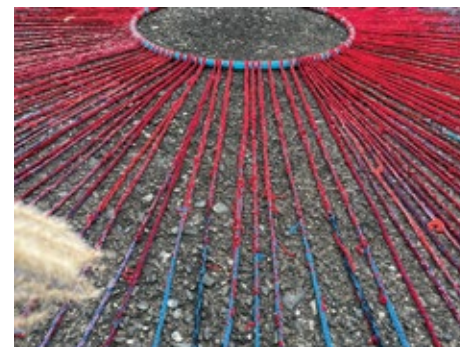
60cm角にベニヤを横にはみ出し積層する。当然重みで外側にたわむ。積層の下には空洞をつくる。この雨風が防げる安全地帯のたたずまいには、どうしても風化した基礎のむき出しが似合う。このように彫刻は重量のバランスや材質にこだわるのだが。

地元の扇さんがドローン撮影をしてくれた。その俯瞰の映像を見ると、まさしくヒトの営みなんてアリのごとく、なんてちっぽけ！私は思わず空を仰いだ。



## 高村牧子

何びきものひつじを数えて眠りを夢見る ひつじを追いかけて吸い込まれる  
 素材:羊毛・プラスチックフープ



展示期間中にビレッジに宿泊させてもらい、当番として会場に居ました。

別荘にお住まいの方は散歩を日課にしている方も多く、気軽に覗いてくださる。

入り口では中の様子がわからないので、ススキをかき分ける奥の作品までご案内すると面白がって見ていただける。

建てようとして、建てられなかった建物の土台のおかげでこの野外展がある。楽しい。

## 高田芳樹

空際(くうさい) - 空と地が接するところ・はるか遠く 素材:セメント他



富士ヶ嶺(FUJIGANE)のススキの野に、見え隠れするコンクリートの基礎。その中で、一番大きそうな一辺2mを超える立方体のコンクリートを選んだ。上面の4平米強を、「地」に見立て、奥の「はるか遠く」に、赤い水平線を張った。

来た人に、上面の縁に指をかけ壁にすがるように、「地と空」の境目を見てもらいたかった。

「空際」は、煩惱の消滅を表し、魂の自由を表す言葉でもある。

## 豎川可奈

Gifts 素材:木・石・布



赤い箱の中の白い石には、ギリシャ神話の神々の名前やメッセージが書かれています。富士山の麓、すすきに囲まれた残存物、青空の下、晩秋の風を感じつつ、ひとり思う…。

この清々しい瞬間を脳の片隅に残して。そして遠路遥々お越しくださった作品の鑑賞者にこの時の記念にお一つ好きな石を持ち帰って戴く作品です。

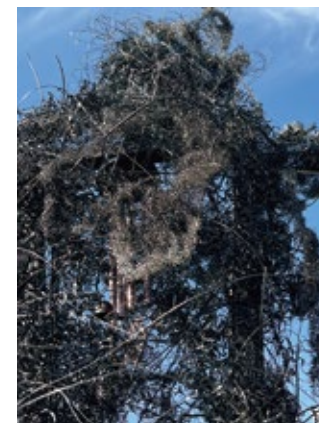


## 原 博史

かなやご 素材:鉄・木

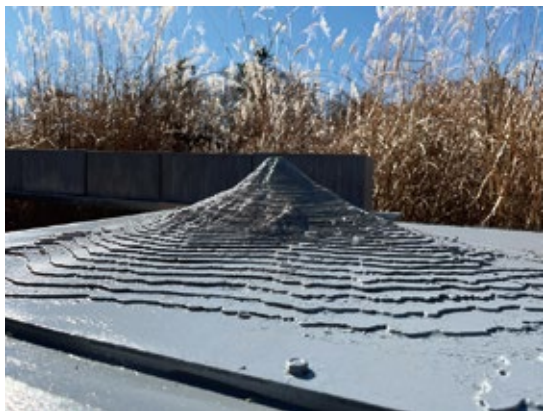


富士を仰ぐ麓、ススキに区切られた台座がある。  
地が育てた鉄で神を案山子のように立てた。  
祀られず、ただ風と時間に晒される神。  
去ったあとに残ったのは、形ではなく、  
地へ還ろうとする錆の痕だけ。



## 東 裕二

ある日の雲 素材:石・合板・アクリル板 etc.



1952年サンフランシスコ平和条約発効、横山大観の「或る日の太平洋」展示される。戦後80年、2025年ならどんな作品になるかを考えてみました。

10月4℃の霧雨からはじまり、ペンキが凍る季節までかかってしまいました。

## 布施新吾

無機質な日差し 素材:ソーラー玩具・タイル・プラスチックポット



殺風景でリアルな感覚を感じる身近なものを題材にした作品を制作しています。

今回も昨年に続き以前から何度か発表している太陽電池で動く100均のおもちゃを使い、エコとは?的な問いも含んだ作品にしています。

日常のほんの少し違和感のある感覚を表現してみました。



## 室岡正明

Lost and Lost 遠い旅路 素材: 榿木その他



私は来年、日本男性の平均寿命に達します。

長く生かされました。

せっかく長生きさせてもらったのに、後悔しきりです。

一反省は前向き、後悔は後ろ向き—

ポ—然と立ち尽くす「Lost & Lost」

間もなく陽が沈みます。



## 堀本俊樹

そらをすきとおしてぶらさがっている 素材:キルンキャスト(ガラス)



今回も宮澤賢治の詩からタイトルをつけてみました。

具体的な形になる部分を選べて残ったものが意外に一致するので気に入っています。

この詩で、そらをすきとおしてぶら下がるのはいちようの若葉でしたが小さな三角形と表現されています。そうだ！また見つけた！なにが、大きな三角が、そびえる富士山！

## 渡辺佐忠

Who are you 素材:木・ニット



この地に住んだのは47年間、作品を置いた場所は道路の上で、富士山を背にして左はホテル本館、右にボーリング場、後に宴会場に改装、私はココで結婚披露宴をした。今はススキの原となり、おもいだしても忘れてしまっている事、多々あり「Who are you」のタイトル作品となりました。

最後の『私は…。』は『歳を取った。』の落ちになるのでしょうか？

## 山麓のトマソン / 関直美

今年は点在する基礎を、大きなものも含めて明確に図面に落とし込んだ。

そんな経緯から大きな基礎においても5人による展示の試みがなされた。

かつて頓挫した建築再計画の基礎が残っているススキにゆれる野原。

それらの基礎を作品の台座とするか、作品の一部とするか、そんな試みである。

美術家の赤瀬川原平(1937~2014)は、路上観察で見つけた無用の長物を「超芸術トマソン」と名付けた。建設途中で放置されてしまった渡れない歩道橋など、その当時の打てない巨人軍4番バッター、トマソンになぞらえた命名である。山麓にもトマソンはあった。

コロナ前まで例年草刈りがなされて、それはそれで基礎の異物感が際立っていて不思議な空間だった。過去2回、室岡正明が中心になって美術展を開催、その痕跡が基礎のあちこちに残っている。



基礎は見えるがススキの中、そんな基礎を選んだ作家は自ら作品へのアプローチを切り開いた。今年は草刈り機を使わなかったものの、切ったススキはやはりしばらく戻ってこないだろう。好きに道をつくっていったらそれなりにススキがなくなっていく。それでよしとするか規制をかけるかはこれからの課題、みなさんとともに考えていきたい。

都心から130キロあまりの山麓の野原は地元以外の作家にとっては負担がかかる距離、おまけに滞在制作は難しくつくりこんできた作品を設置するのみ、参加作家には感謝しかない。ありがとうございました。

追記:

いけよしの・深谷正子によるオープニングダンスパフォーマンスは、前日までぐずっていた雨模様から富士山もくっきりと姿を現す天気恵まれ、幸先よいスタートを切った。

晴れ女はどっち？

地元の方をはじめとして渋滞にもめげず遠くから見に来てくれた観客の皆さんに感謝いたします。



## Dance Performance



深谷正子とは40年来の付き合いである。休むことなくダンスに彼女の「温度」を注入、踊り続けている。一方、いけよしのは昨年見に来て観客がない時に基礎に上り、声を出して響きを確認していた。それを聞いていたらなんだかとてもいい気持ちになった。

そんなミレニアル世代の彼女を、長いキャリアの深谷正子とぶつけてみたらどんな化学反応が起こるだろうか、そんな動機が実現した。2人に感謝！

関直美

いけよしの Ike Yoshino 深谷正子 Fukaya Masako



「わかっていることは言わなくていい！」そう深谷正子は声を発しました。

ダンスのラストシーン。私はその言葉に感動しました！

そうだ、みんなすでに分かっていることを、ゴチャゴチャとうるさい。もっと話し合わなければいけないことがあるはずだ！と、でも、だからこそ、そのことを「わかっていることは言わなくていい」と分かっている人々にいわなければならなかったのかと！

高村牧子のツイートから